

国際ロータリー第2580地区（東京・沖縄）

東京武蔵村山ロータリークラブ

Tokyo-Musashimurayama Rotary Club

週 報 No.1558

2003-04年度 国際ロータリーテーマ 「手 を 貸 そ う」 RI会長 ジョナサン・マジアベ

国際ロータリー 第2580地区
2003-04年度ガバナー 戸田 一

「脚下照顧・少欲知足」

2月は世界理解月間です。

本日の例会

全員協議会



Lend a Hand

第1559回

例会

2004. 2. 4

東京武蔵村山ロータリークラブテーマ

「ロータリーの理解を深め、
楽しいクラブ活動にしよう。」

第32代クラブ会長 石井 源一郎

次回例会案内【2月19日(木)】

4RC合同例会(例会振替)

第1558回例会報告

司会 比留間 孝司 SAA副委員長

点 鐘

(石井 源一郎 会長)

会務報告

(石井 源一郎 会長)

斉 唱

我等の生業

○ ROTARY WORLD 2004年1月号が届いています。

○ RI事務総長より

ポリオ撲滅キャンペーンのメッセージを新聞社へ提出する書式例が届いています。

来客紹介

(石井 源一郎 会長)

○ 卓話講師

市役所 都市建設部 部長 石井 常男 様

市役所 都市モノレール担当参事 安東 季之 様

○ ゲスト

東大和RC 松本 喜美 様

東大和RC 若林 和男 様



幹事報告

(比留間 重次 幹事)

○ 例会変更 福生RC

2月11日→休会

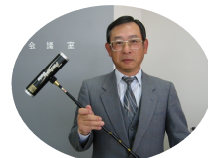
3月10日→14日 35周年チャリティー お茶会 福生「福庵」

17日→16日 多摩分区I・Mに振替え

○ ローターレート変更 2月1日より

1ドル 106円 (現行110円)

委員会報告



出席報告

(比留間 昭三 出席副委員長)

会員数	出席者数	出席率	前々回出席率修正
34名	26名	76.47%	なし

○ ゲートボール会 (原田 友義 会員)

新しいスティックを5本購入しました。暖くなったら練習を始めますので宜しくお願いします。

○ I・Mのご案内 (東大和RC 松本 喜美 様 若林 和男 様)

3月16日(火) 立川パレスホテルにてI・Mを行います。

皆さんに喜んでもらえる内容に致しますので全員出席をお願い致します。

◇創立 1972年7月8日 ◇承認 1972年7月20日
◇スポンサークラブ 東京立川ロータリークラブ
◎会長 石井 源一郎 ◎幹事 比留間 重次
○副会長 清水 高彦 ○副幹事 薄井 政光
□会報雑誌委員長 田中 伸彦 副委員長 石井 賢司
委員 栗原 高明、芦川 征史、峯岸 一郎

◇例会場 西武信用金庫・村山支店2階
〒208-0004 武蔵村山市本町2-91-1
◇例会日 毎週水曜日 12:30~13:30
◇クラブ事務局
〒208-0004 武蔵村山市本町2-91-1

武蔵村山市都市建設部 部長 石井 常男 様
都市モノレール担当参事 安東 季之 様



I. 日産村山工場跡地開発

平成13年8月に発足した「跡地利用協議会」（四者協議会）は、同年11月、協議会における協議・検討の結果を『中間整理』として集約しました。

その後、平成14年3月に、跡地全体（約140ha）の3/4にあたる約106haの敷地が日産自動車 株式会社から宗教法人 真如苑に譲渡（売却）され、新たに真如苑を加えた「跡地利用協議会」（五者協議会）となりました。

五者協議会において、約1年間にわたり計5回の協議会を開催し、『中間整理』の考え方をもとに、跡地利用計画の更なる具体化について検討しました。その結果、ここに関係者において等しく共有し、今後のまちづくりの指針とすべきものとして、「まちづくり方針」をとりまとめるに至りました。今後は、この「まちづくり方針」を踏まえ、各街区の計画の熟度に応じて具体的な都市計画や事業につなげていきます。

跡地利用のビジョン

- ① 狭山丘陵から多摩川に至る自然の系を活かした環境の街の実現。
・市民生活に憩いと潤いを与え、市民の“心のふるさと”となるような緑豊かな街の実現を図る。
- ② 賑わいと活気にあふれる都市空間の形成
・都市核土地区画整理事業地区や武蔵砂川駅周辺地区など、周辺地域との連携を図りつつ、憩いと潤い、賑わいや新たな雇用の創出などによる地域経済の活性化を資する空間形成を図る。
- ③ アメニティのある質の高い生活空間の形成
・道路、公園などの都市基盤施設や公益施設（病院）を適切に整備する中で、豊かな環境の市街地形成を進め、市民生活に利便性や快適性を提供する質の高い街の形成を図る。

II. 都市核地区土地区画整理事業

おかげさまで、都市核地区が、平成13年1月22日に「立川都市計画事業武蔵村山都市核土地区画整理事業」として、事業計画決定されました。

これにより、武蔵村山市の長年の念願であったまちづくりが本格的にスタートします。

都市核地区は、市の中心核としてふさわしい“魅力あふれるやすらぎの街”を目指し、道路や公園などの都市基盤整備を行うほか、商業・業務施設の集積や、住宅と工場の混在の解消、さらに、良好な住宅地の整備を図ります。

今後も、皆様のご意見を伺いながら、“魅力ある都市核”のまちづくりに向けてまい進してまいりますので、よろしくお願い致します。



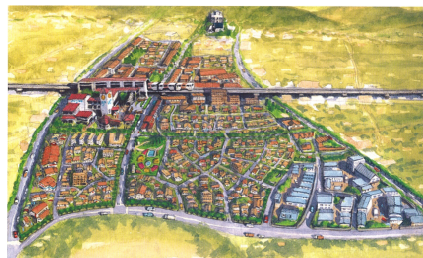
ニコニコBOX (内野 義久 親睦委員)

- ☀ 松本喜美様（東大和RC）⇒大変お世話になっております。武蔵村山ロータリークラブの皆様、本日はI・MのPRにお邪魔しました。どうぞ宜しくお願い致します。
- ☀ 波多野稔会員⇒昨日1月27日、二人目の孫、二男が無事誕生致しました。母子共に健康です。今後共、宜敷くお願い致します。

◆ 今回計 20,000円 ◆ 累計 1,133,000円

事業の概要

- (1) 事業の名称 立川都市計画事業武蔵村山都市核土地区画整理事業
- (2) 施 行 者 武蔵村山市
- (3) 施行地区 武蔵村山市本町一丁目、榎三丁目の各地内
- (4) 施行面積 約30.9ha
- (5) 施行期間 平成12～26年度



都市核地区
(イメージ)

III. 多摩都市モノレール市内延伸

多摩都市モノレール事業は、多摩自立都市圏の形成を図る上で重要な公共交通網の根幹をなすものであり、全線9.3kmの構想があります。そのうち、上北台から箱根ヶ崎までの延伸区間約7kmは、平成4年12月に東京都が事業化すべき路線として決定した後、平成6年6月には国庫補助事業の採択を受け次期事業化が決定し、以来、様々な調査・検討が行われています。また、平成12年1月の運輸政策審議会答申第18号でも、整備推進すべき路線に位置付けられました。こうした中、延伸区間では、武蔵村山市都市核地区など6地区で土地区画整理事業が進められており、沿線地域ではモノレール延伸の早期事業化が切望されています。

箱根ヶ崎までモノレールが延伸されると（事業効果）

- ① 目的地まで速く・正確に到着できます。
- ② 新青梅街道の交通の円滑化が図られます。
- ③ 沿線環境が改善されます。
- ④ 地域の活性化が図られます。

現在、モノレールの延伸計画は、沿線市町を含めた関係機関により事業化に向けた調査・検討が行われていますが、早期実現を図るため市民のみなさんや関係機関のさらなるご理解・ご協力が必要です。



今日の食事

